

DICTIONARY OF MODERN RELIGION

現代世界で、宗教はどのような姿をあらわしているか？

宗教の〈現代〉を知る

# 現代宗教事典

井上順孝 編

DICTIONARY OF MODERN RELIGION

弘文堂

**21**世紀にはいり、宗教をめぐる問題は、より複雑で多様になり、また一時期予想された以上に、宗教はその影響力の大きさを保っている。日本では20世紀末から宗教離れの傾向が指摘されたが、それは組織的な宗教に関わる人が、いくぶん減少していることを意味する。民俗信仰やオカルト、神秘現象、超常現象といったものへの関心は決して衰えていない。また世界的に見れば、9.11以来、宗教が関係する紛争や宗教原理主義への注目が集まり、とりわけイスラームの存在が大きくクローズアップされた。異文化宗教への知識や理解が、これまでになく必要な時代となっていると言える。

## 刊行の言葉



編者

井上順孝

宗教を情報産業と位置付ける研究者がいるが、宗教にとって、情報の発信と受信はきわめて重要な活動である。情報化が進行する社会では、宗教運動や宗教団体の活動は多様化する。またグローバル化が進行する状況のなかで、宗教間の相互影響、また異文化宗教からの影響というものも格段に大きくなっている。社会全体の構造が複雑化することにより、どこまでを宗教的現象、出来事に含めるかの見極めも、従来に比べてずっと困難になっている。

こうした現代の状況を踏まえて、この事典は刊行される。現代社会における宗教現象を理解したり、学ぼうとするとき、従来の宗教の歴史や教えについての基本的知識に加えて、新しく兆している宗教現象への知識や、新しいアプローチの仕方が必要になってくる。そこで、宗教を理解する上で基本となるような項目に加え、とくに近現代の宗教現象、さらにはそれと関わりの深いテーマに関する項目を中心的に選んだ。

記述は、なるべく具体的で分かりやすいものになるように努め、新しい研究の方法や視点も多く紹介するようにした。人々が今何を知りたいと思っているかを念頭に置き、その理解のために有効な用語、人名、団体、文献などを、宗教社会学的な視点をベースにしながらも、関連する領域に幅広く目を注いで選定した。古典的な学説やすでに研究者の間で共通認識になっている用語や概念については、なるべく現代社会における具体的事例を提示し、生きた概念として把握できるようにした。

現代世界において、宗教はどのような姿をあらわしているか、新たにきざしつつある潮流を見逃さないよう、知のフロンティアを積極的に目指すものとした。この事典を用いることによって、いかに宗教という現象が現在と今後の日本社会、国際社会の理解にとって重要な位置を占めているかを実感してもらえればと願っている。

2004年11月

# 組方見本

用語の項目

セイメイリンリ

## 生命倫理

bioethics [英]

生命倫理という語で指し示される範囲の事見出しに対応する歴史をもっている。たとえば、堕胎(中絶)や間引き、死刑や自殺や安楽死の是非、病気の弱者の処遇といった問題は、近代以前の社会でもそれに対する意見が分か

れ、是非が論じられてきた事柄だった。これらは人間の条件が強い問いで、いわば人類永遠の問題と言えるかもしれない。まとまった言説や学知の形をとるかどうかは別として、こうした問題をめぐる思考や態度は人類の諸文化でさまざまに形づくられてきた。

だが、近代化とともに人権の意識が高まり、さらに近代の医療や制度の影響が増してくるにしたがって、死生の分かれ目や身体への介入に関する意志決定が討議や考察の対象となってくる機会が増えてくる。「生命倫理」という言葉は、こうした傾向を受けて形づくられる。20世紀の最後の数十年は、生命科学と医療技術の発展が著しく、また、人権をめぐる意識が高まったこともあって、生命倫理の考察が切実に求められるようになってきた。こうした変化を受けて、1970年頃からは「生命倫理(学)」が学問分野としての形を整え、教育や研究の場も次第に充実するようになる。中にはなかなか解決の難しい問題も多く、一般に

患者の意志をまず尊重すべきことが説かれる。他方、患者の利益を守ろうとすることによって、医師が実は弱い立場の生命を侵害したり、人間の生死の限界とされてきたものを越えてしまうという事態も生ずるようになる。現代の生命倫理問題が宗教的、ある程度普遍的なものにふれるのは、そのように関わっている。

参考文献 加藤尚武、飯田亘之編『バイオエシックスの基礎 欧米の「生命倫理」論』東海大学出版会、1988年。/山崎広光『いのち 論のエチカ 生と死についての23講』北樹出版1995年。ジェンダー論と宗教

しば大きな関心を寄せた。宗教的な伝統に基づく死生観に基づいて、現代的な個人の自由からとは是とされる事柄に宗教集目立つ。また、特定の宗教、文化的伝統を意識した事柄を毎頁で紹介する。思想的な考え方が含みこまれるよ

うなこともある。特定の宗教集団によらないという立場で価値観を表明するのだが、他と異なるある思考様式が価値判断の前提として強く前面に押し出される。そこに宗教的な思考法を見るのが無理ではない場合である。前者の代表例は、人工妊娠中絶の是非をめぐる議論であり、後者の代表例は、日本における脳死・臓器移植をめぐる議論だろう。

米国を中心に欧米社会で人工妊娠中絶(堕胎)の是非が大きな論争の題材となるのは、1960年代のことである。19世紀半ば以来禁止されてきた中絶を合法化しようとする動きが強まってくる。やがて、中絶をするかどうかを決めることは女性の権利だとする考え方が力をもつようになる。これはちょうど、学問的な体系性をもった生命倫理の議論が成立してくる時期と重なった。そもそも生命倫理学は医師による人体実験から患者を守ることが重要な動機となって成立したものであり、生命倫理学にとって「自己決定」は中核をなす原理と考えられた。これがフェミニズムの潮流と重なって、女性の権利(産む

介入する医師の患者の意志をまず尊重すべきことが説かれる。他方、患者の利益を守ろうとすることによって、医師が実は弱い立場の生命を侵害したり、人間の生死の限界とされてきたものを越えてしまうという事態も生ずるようになる。現代の生命倫理問題が宗教的、ある程度普遍的なものにふれるのは、そのように関わっている。

参考文献 加藤尚武、飯田亘之編『バイオエシックスの基礎 欧米の「生命倫理」論』東海大学出版会、1988年。/山崎広光『いのち 論のエチカ 生と死についての23講』北樹出版1995年。ジェンダー論と宗教

1月1日から12月31日まで1日ずつ宗教と関連する出来事を毎頁で紹介する。

2.14 イラン指導者ホメイニー、小説「悪魔の詩」著者ラシュディに死刑を宣告。(1989)

さらに理解を深めるための関連項目を示しています。

執筆者名。全項目が署名原稿です。

## ダライラマ14世

現代チベットの仏教の指導者  
Tala'i bla ma sku phreng bcu bzhi pa [藏],  
1935年 -

「ダライラマ」とは1578年にモンゴルの部族長アルタン・ハンがチベット仏教ゲルク派の指導者ソナム・ギャツォに送った称号であり、「大海の師」の意である。チベットを教化する観音菩薩の化身とされ、この地位は世襲によらず転世ラマ制度によって次代に継承される。1642年以降のダライラマは、チベットに権の長たるラサライラマの地位を継承し、チベット自治区の最高指導者として14代目ダライラマとして知られる。

## 宗教の復讐

グローバル化する世界での宗教復興を促す  
La revanche de dieu: chretiens, juifs et musulmans a la reconquete du monde. Paris: Seuil, 1991.  
訳書 / 中島ひかる訳、晶文社、1991年。

フランスの社会学者、政治学者ジル・ケベルの著書。原題は「神の復讐」サブタイトルは「世界の再征服に乗り出すキリスト教徒、ユダヤ教徒、イスラーム教徒」。ジル・ケベル(1955年生まれ)はイスラーム研究者として世界的に著名である。本書は、1970年代以降に顕著になった宗教復興ないしは宗教再利用の諸相を、政治との接点において捉えようという視点から書かれている。1970年代が政治と宗教の関係にとりかきかたの転回点をなす10年と位置づけられる。イラン革命は、1973年の石油ショックをきっかけに起こされた。ケベルは、それまでのマルクス主義の批判を乗り越え、宗教の復活を主張したとす

## オンライン伝道

online ministry [英]

インターネットなどのコンピュータネットワークを利用し、伝道・布教活動を行うことを指す。担い手の多くは、既存の宗教教団や寺院、教会などが占める。また、信者が自らの信仰を布教するためにオンライン伝道を行う場合もある。インターネット普及以前、パソコン通信によるオンライン伝道は、費用の面においても、技術の面においても困難が多く、特殊な集団の中でのみ利用されていた。国内においては1991年にオウム真理教が初めてパソコン通信を宗教伝道に利用した。社会からの非難を浴び始めていた同教は、出版やラジオ放送などのように第三者から影響を受けることのない伝道活動として、パソコン通信を独自に活用し、教義に対して興味をもった人々の意見を募集する

宗教家の項目

## ルーマン

独自の社会システム論を宗教研究にも応用したドイツの社会学者  
Niklas Luhmann, 1927 - 98年

人名の原綴りです。

生没年です。

研究者名には原綴りが入ります。

翻訳書の書名です。

原書・翻訳書の書誌データです。

文献の項目

研究者の項目

## 『現代宗教事典』の特徴

- 1 宗教と社会の関係を重視した解説**  
現代社会に焦点をあて、宗教と社会の関わりを中心に解説します。
- 2 読者が何を知りたいかに重きを置いた項目構成**  
現代人が宗教との関わりの中で知りたいことに応える項目を精選しています。
- 3 知のフロンティアをめざす編集**  
最新の学術的成果をふまえ、新たに兆した潮流を見逃がしません。
- 4 具体的で生きた記述**  
現代社会に生起する具体的事例を提示し、生きた概念として把握できるように配慮しています。

用語の項目

## 分野と項目例 (全体は分類に関係なく50音順に配列されます)

### 用語

悪魔 / アニメと宗教 / イスラーム原理主義 / イニシエーション / 癒しと宗教 / インターネットと宗教 / 占い / エキュメニズム / エンバーミング / オーディエンスカルト / オカルト / オリエンタリズム / オンライン伝道 / ガイア / カシミール紛争 / 神 / カリスマ / カルト / 気功 / 北アイルランド紛争 / 教会 / 教祖 / 教典 / キリスト教原理主義 / 偶像崇拜 / クリスマス / グル / グローバル化と宗教 / 啓示 / 穢れ / 現象学的社会学 / 公共圏と宗教問題 / 公共宗教 / 国教 / コミュナリズム / コンピュータゲームと宗教 / サイバー宗教 / 散骨・自然葬 / ジェンダー論と宗教 / シオニズム / 地獄 / 市民宗教 / シャーマン / 宗教教育 / 宗教協力 / 宗教結社 / 宗教建築 / 宗教人口 / 宗教多元主義 / 宗教的ナショナリズム / 宗教の定義 / 宗教紛争 / 宗教法 / 宗教ボランティア / 修道会 / 修道士 / 終末論 / 呪術 / 巡礼 / 情報化と宗教 / 信教自由 / 神義論 / シンクレティズム / 新宗教 / 神智学 / 神話 / スーフイズム / スティグマ / スピリチュアリティ / 政教分離 / 聖書 / 精神世界 / 精神分析と宗教 / 聖地 / 聖典 / 生命倫理 / 世俗化 / セラピー / 千年王国運動 / 相対的剥奪 / ターミナル・ケア / 対抗文化 / 代替医療 / タオ / 多国籍宗教 / 脱会カウンセリング / タブー / タリバン / タントリズム / チャーチ・セクト論 / チャネリング / 超常現象 / 超能力 / 手かざし / デノミネーション / テレビ伝道 / 天国 / 天使 / トランスパーソナル / トリックスター / ニューエイジ運動 / ニューサイエンス / 入信理論 / ニューソート / ネオ・シンクレティズム / ネオ・ブッディズム / パーチャル宗教 / ハラル / ハルマゲドン / パレスチナ問題 / パレンタインデー / 反カルト運動 / 般若心経 / ヒーリング / ヒンドゥー原理主義 / ファンダメンタリズム / 風水 / 復活祭 / ブラックムスリム / 法華経 / ホスピス / 仏 (ほとけ) / マインドコントロール / ミサ / 水子供養 / ミッション / 民族宗教 / 民俗信仰 / 無神論 / 無宗教 / メシア / モスク / 厄年 / 靖国問題 / ユーゴスラビア紛争 / UFOカルト / ユダヤ教原理主義 / ヨガ / 予言 / ライシテ / ラビ / ラマダーン / 輪廻転生 / 霊術 / ローマ教皇 ほか

### 外国の宗教

アーミッシュ / アフリカ独立教会 / アルメニア教会 / イギリス国教会 / イスラーム / エホバの証人 / オーソドクス / オブス・ディ / 解放の神学 / 救世軍 / キリスト教 / キリスト教科学 / キンバング運動 / コプト教会 / サイエントロジー / シア派 / シク教 / ジャイナ教 / 儒教 / 純福音教会 / 上座仏教 / 新儒家 / 人民寺院 / スンニー派 / 曹溪宗 / ゴロアスター教 / 大乘仏教 / 太陽寺院 / タンマギー寺 / チベット仏教 / TM (超越的瞑想) / 統一教会 (世界統一神霊協会) / 東学 / 道教 / 東方典礼カトリック / パハイ教 / パプティスト派 / ハレークリシュナ / ヒンドゥー教 / ブドゥー教 / 仏教 / プロテスタント / ヘブズゲート / ベンテコステ派 / ホアハオ教 / 法輪功 / 末日聖徒イエス・キ

スト教会 / マロン派 / メソディズム / ユダヤ教 / ラエリアン運動 / ラジニーシ運動 / ラスタファリ運動 / ローマ・カトリック / ロシア正教 ほか

### 日本の宗教

熱田神宮 / 出雲大社 / 伊勢神宮 / 円応教 / オウム真理教 / 大本 / 黒住教 / 顕正会 / 幸福の科学 / 護国神社 / 金光教 / GLA / 修験道 / 浄土宗 / 浄土真宗 / 浄土真宗親鸞会 / 真言宗 / 神道 / 真如苑 / 崇教真光 / 生長の家 / 世界救世教 / 善隣教 / 創価学会 / 曹洞宗 / 大宰府天満宮 / 天理教 / 日蓮宗 / 日蓮正宗 / 日本基督教団 / 日本聖公会 / 日本ハリストス正教会 / PL教団 / 妙智會 / 明治神宮 / 立正佼成会 / 霊友会 / 臨済宗 ほか

### 関連組織

アメリカ宗教学会 / カトリック中央協議会 / 神社本庁 / 新日本宗教団体連合会 / 世界宗教者平和会議 / 全日本仏教会 / 日本キリスト教連合会 / 日本宗教学会 / 比叡山宗教サミット ほか

### 外国人宗教家

アンベードカル / イエス・キリスト / キング牧師 / サイババ / シュタイナー / ダライラマ14世 / ブッダ / ホメイニー / マザー・テレザ / ムハンマド / ヨハネパウロ2世 ほか

### 日本人宗教家

井上円了 / 賀川豊彦 / 鈴木大拙 / 庭野日敬 / 藤井日達 / 牧口常三郎 / 御木徳近 / 山田恵諦 / 山田無文 / 山室軍平 ほか

### 外国人宗教研究者

インガー / ウィルソン / ウェーバー / エリアーデ / エルツ / オディ / カスタネダ / ギアツ / コックス / サイド / ジンメル / スターク / デュルケム / ドベラーレ / トレルチ / ニーバー / パーガー / パーソンズ / フェスティンガー / フロイト / ベックフォード / ベラー / マックファーランド / モース / ユベール / コルゲンスマイヤー / ユング / ランテルナーリ / リップ / ルーマン / ルックマン / ロバートソン / ワースレイ / ワッハ ほか

### 日本人宗教研究者

崎崎正治 / 井筒俊彦 / 折口信夫 / 河野省三 / 岸本英夫 / 中村元 / 古野清人 / 堀一郎 / 村上重良 / 柳川啓一 / 柳田国男 ほか

### 外国語文献

神々のラッシュアワー / 儀礼の過程 / 近代世界の公共宗教 / 構造としての神 / 心の習慣 / グローバリゼーション / 虐げられた者の宗教 / 宗教社会学 / 宗教生活の原初形態 / 宗教セクト /

# 現代宗教事典

**予約募集中!!**

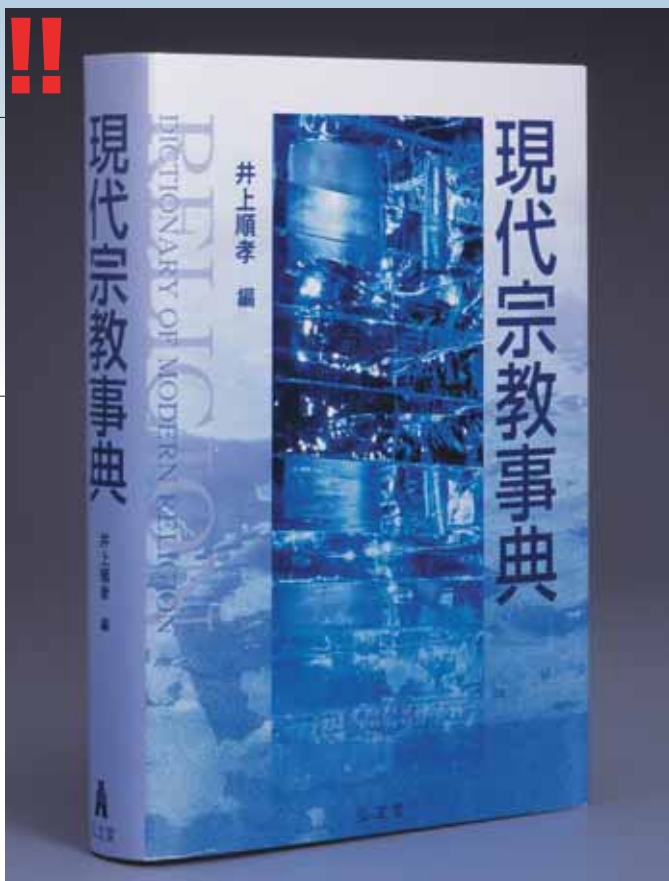
2005年1月刊行予定  
定価 9,450円

(本体9,000円+税450円)  
体裁/A5判600頁 本文12級横2段組  
50音順 500項目 上製 カバー巻き  
装丁/本間公俊

## 読者の皆様へ

現代社会はますます複雑に展開し、宗教に関わる出来事も従来の枠組みでは理解しがたい場合が増えています。人びとが宗教に求めるものの変化、昨今の宗教がからんだ地域紛争・国際紛争、情報化社会のなかでの宗教の変容などは宗教についての新しい解釈の必要性を示しています。しかし、今までの宗教に関する事典は宗教史中心の解説が多く、必ずしも現代人が知りたいことに答えていませんでした。本事典は、現代社会と宗教の関わりに重きを置いた、まさに現代人のための宗教事典です。

ご注文はお早めに最寄りの書店にお申し込みください。書店へのご注文が不便な場合には、直接小社宛にお申し込みください(ただし送料を申し受けます)。お早めのご予約をお待ちしています。



**弘文堂**

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-7  
電話03-3294-4801 FAX. 03-3294-7034  
URL. <http://www.koubundou.co.jp/>  
振替00120-6-53909

申込書 **現代宗教事典** 冊 申し込みます。

ISBN4-335-16037-2 C1514

取扱い書店

ご住所 (〒 )

お名前

お電話